

咳嗽に対するニザチジン治療の有用性 安定期気管支喘息患者のカプサイシン咳感受性に対するCOX-2阻害 薬経口投与の影響

石浦嘉久1、藤村政樹2、丹保裕一2、新屋智之1、明 茂治2、野畑浩一2、中村裕行1、
(市立富山市民呼吸器内科1、金沢大学大学院呼吸器内科2)

【目的】気管支喘息はアレルギー性気道炎症を基本病態の一つとする疾患であるが、咳嗽と慢性気道炎症との関係の詳細については明らかではない。気管支喘息患者の気道においてCOX-2発現が増強しているとの報告があるが、咳感受性に対する作用の詳細に関しては不明である。このため、カプサイシン咳感受性に対するCOX-2阻害薬投与の影響について検討した。

【対象と方法】安定期気管支喘息患者17名(39-83歳;平均73.6歳)を対象とした。既報の方法によりカプサイシン咳閾値を測定した後に、COX-2阻害薬である etodolac 400mg/日または対照薬を2週間cross-over法で投与した。

【結果】COX-2阻害薬投与により気管支喘息患者の呼吸機能は変化しなかったが、カプサイシン咳閾値は有意に増加した。

【考察】

気管支喘息患者の気道において、COX-2は咳受容体感受性を亢進させる方向に作用することが示唆された。